

作業療法だより(10)

平成19年11月

今回は、当院作業療法が、日常生活において高次脳機能障害を有している患者様の検査として、用いる評価器具を紹介します。高次脳機能障害とは、交通事故での頭部外傷や脳血管疾患(脳卒中など)により、脳損傷を経験した方が、記憶や注意、思考や言語などの知的な機能に障害を抱え、日常生活に支障をきたすことを言います。

今回は日常での記憶を検査し、行動特性の把握が可能な「日本版リバーミード行動記憶検査」(以下RBMT)を紹介します。

1. リバーミード行動記憶検査(The rivermead behavioral memory Test:RBMT)

RBMTは、9項目からなる検査を行い、人の名前や顔写真の記憶、道順や用件を覚えるといった、日常生活に欠かすことの出来ない記憶をタイミングよく思い出すといった幅広い記憶の検出が検査出来ます。また検査所要時間は約30分前後で、以下の表に示したような問題事項を評価していきます。

日常生活上の問題例
・近所の方や新しく出会った人の顔や名前が覚えられない。
・片付けた物の場所を忘れてしまう。
・家族や友人との約束事を覚えられない。
・服薬を忘れてしまう。
・自宅や駐車場といった場所を覚えられない。
・言葉で説明した注意事項などが記憶できない。
・顔見知りの方の顔を記憶できない。
・現在地の場所認識が出来ない。
・自分がとった行動を記憶できない。
・すべき行動を必要な時に思い出せない。
・正しい場所や日付認識ができず混乱する
・問題行動の発端

検査の結果、標準点数により記憶に問題があると判断された場合は右図のような方法に基づいて訓練を行います。

訓練法

①誤りをさせない学習法

・環境の調整
・補助具の使用

自立度向上
の目標設定

このような記憶障害を有しておられる患者様のために、当作業療法では検査から訓練まで、積極的に行っています。

自立・社会復帰

障害像の分析
(病歴・画像・行動観察)

